

・・・スパイ糾弾訴訟・第2回証人尋問・・・

原告主尋問で「革マル派の浸透」でっち上げをことごとく覆す！ JR総連・JR東労組は当たり前の労働運動を進めてきた！

5月16日、東京地裁103号法廷において「スパイ糾弾訴訟」の第2回証人尋問が行われました。今回の尋問では、原告及び原告側証人を含めた14名に対する主尋問と、3名に対する反対尋問が行われました。主尋問で原告らは、事実無根の「革マル派活動家のリスト」をマスコミにばらまいたことは許せない。人権侵害である。JR総連とJR東労組には革マル派の浸透はなく、組合運動を真面目に行っている組織である。そうでなければ国鉄改革も組合員の利益を守る運動もできなかつたと主張しました。また、嶋田一味と公安警察、そして西岡記者がJR総連・JR東労組を破壊するために一体となって『週刊現代』に「リスト」を掲載し、嶋田らが自分たちも革マル派の同盟員であったとしたことはねつ造であると証言しました。そして、嶋田は「労働運動のプロ」と証言したが、労働運動のプロならば、自分たちが行った記者会見がどのようなことを生み出すのか考えるべきであり、組織を去って行った者が過去の運動を語ることに哀れみさえ感じる。信義に反するスパイ行為であると断罪しました。

反対尋問で被告側弁護士は、原告らが革マル派の同盟員であるかのように誘導する尋問に終始しましたが、原告側の毅然とした対応にその意図は見事に打ち砕かれました。被告席に座った嶋田は、時々顔を歪め自らの主張がことごとく崩されていくことに危機感を感じている様子でした。

報告集会では、石川尚吾原告団長が「JR東労組は組織規約に



則って運動を進めてきた。嶋田一味、公安警察、西岡記者、マスコミの4位一体となった攻撃である。次回の反対尋問には万全な態勢で臨んでいく」と勝利に向けて更に奮闘していく決意を述べました。次回は、7月18日10時から原告側への反対尋問です。

嶋田が労働運動のプロとは呆れる！

公安警察・西岡記者・週刊現代・嶋田一味は四位一体！ 組破壊攻撃を許さず裁判闘争を勝利しよう！